

このプリントのねらい

- 起こる事象が2回以上のときの起こりうるすべての調べ方を学び、その確率をもとめることができる

3年3組の生徒のみ

p186 たしかめ2

- (1) 9枚のカードのうち1枚を引くので  
起こりうるすべては9通り  
答え：9通り
- (2) どのカードも1枚ずつなので、差がない。つまり同様に確からしいといえる  
答え：いえる
- (3) 奇数のカードは、  
1, 3, 5, 7, 9の5通り  
答え：5通り
- (4) おこりうるすべては9通り、うち奇数のカードを引くのは5通りよって求める  
確率は  $\frac{5}{9}$  答え： $\frac{5}{9}$

Q

- ア 起こりうるすべては6通り。うち白玉は0個。よって白玉が出る確率は  $\frac{0}{6}$
- イ 起こりうるすべては6通り。うち白玉は3個。よって白玉が出る確率は  $\frac{3}{6}$
- ウ 起こりうるすべては6通り。うち白玉は6個。よって白玉が出る確率は  $\frac{6}{6} = 1$

(point)  
絶対に起きないときの確率は0  
必ず起きるときの確率は1

p 187 ③いろいろな確率



2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、次のア～ウのどの場合が起こりやすいか予想してみましょう。

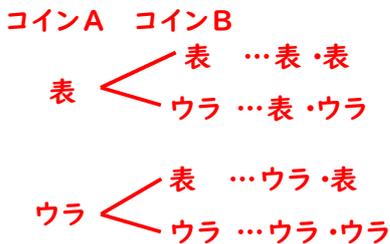
- ア 2枚とも表    イ 1枚は表で、もう1枚は裏    ウ 2枚とも裏



(point)  
起こりうるすべてを調べる図＝樹形図  
2つ以上の事象のとき必ず書くこと！

【起こりうるすべての場合を図にかいて整理する】

【起こりうるすべてを調べる図】



1枚が表、もう1枚が裏が  
起きやすい！！

問1 左の図から、ア、イ、ウの確率をそれぞれ求める。

【ア 2枚とも表になる確率】  
起こりうるすべては4通り。うち2枚とも表は1通り  
よって2枚とも表が出る確率は  $\frac{1}{4}$  答え： $\frac{1}{4}$

【イ 1枚は表、もう1枚は裏になる確率】  
起こりうるすべては4通り。うち1枚が表、1枚が裏は2通り。よって求める確率は  $\frac{2}{4} = \frac{1}{2}$  答え： $\frac{1}{2}$

【ウ 2枚とも裏になる確率】  
起こりうるすべては4通り。うち2枚とも裏は1通り  
よって求める確率は  $\frac{1}{4}$  答え： $\frac{1}{4}$

p187 たしかめ1

上の樹形図より、起こりうるすべては4通り、うち2枚とも裏は1通り  
よって、2枚とも裏になる確率  $\frac{1}{4}$  答え： $\frac{1}{4}$

p188 例題1

【起こりうるすべての場合を整理する】

【確率を求める】

	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8
3	4	5	6	7	8	9
4	5	6	7	8	9	10
5	6	7	8	9	10	11
6	7	8	9	10	11	12

(point)  
「さいころを2個投げる」→本来は樹形図を書くでも、さいころの時は表のほうが便利  
2つ以上の事象のとき必ず書くこと!

さいころ2個投げるときに起こりうるすべては  
 $6 \times 6 = 36$  通り

起こりうるすべては36通り。  
うち、和(2つのたし算)が5になるのは  
左の「5」の場所の4通り。  
よって、和が5になる確率は、  
 $\frac{4}{36} = \frac{1}{9}$  答え： $\frac{1}{9}$

p188 たしかめ2

- (1) 起こりうるすべては36通り。うち、和が3の倍数(3, 6, 9, 12)になるのは13通り  
よって求める確率は  $\frac{13}{36} = \frac{1}{3}$  答え： $\frac{1}{3}$
- (2) 起こりうるすべては36通り。うち、和が7以上になるのは21通り  
よって求める確率は  $\frac{21}{36} = \frac{7}{12}$  答え： $\frac{7}{12}$
- (3) 起こりうるすべては36通り。うち、和が6以下になるのは15通り  
よって求める確率は  $\frac{15}{36} = \frac{5}{12}$  答え： $\frac{5}{12}$

問2

左上の表を見ると、和が7になるときが、一番多い。  
よって、7のときが確率が最も大きい

答え：7のとき

(point)  
問2のような問題のときは、  
答えだけではなく理由も書くこと。  
例えば、「～よって、答えは～」  
または、「答えは～、なぜなら～だから」

p189 例題2

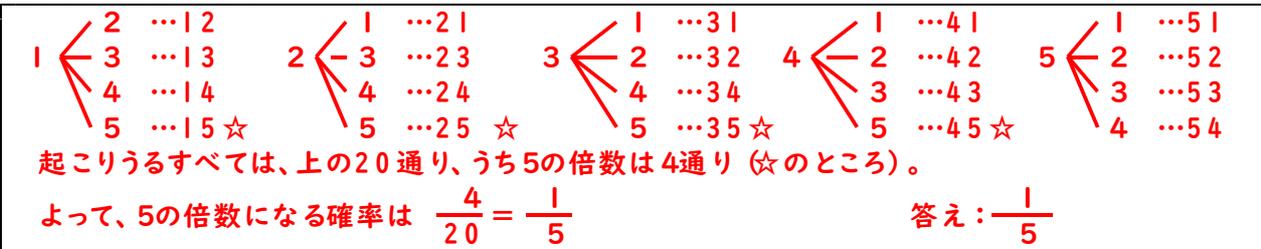
【起こりうるすべての場合を整理する】

【確率を求める】



左の樹形図のように、起こりうるすべては、12通り。  
うち、偶数は6通り(☆がついている所)  
よって、偶数になる確率は、  
 $\frac{6}{12} = \frac{1}{2}$  答え： $\frac{1}{2}$

p189 たしかめ3



**本時のまとめ** 事象が1つの時と、事象が2つ以上になったときの違いを説明しなさい  
(例)  
○ 事象が1つのときは、起こりうるすべてを調べる必要がないが、事象が2つ以上のときは、  
樹形図か表を作って調べる必要がある。